

# くすの木

<清水小学校めざす児童像>

「しっかり考える子」「自らよく行う子」  
「すこやかな子」

令和4年6月号

校長 迎 和人

## 6月は「いのちを見つめる強調月間」です

6月は「いのちを見つめる強調月間」になっています。各学校で、道徳の授業を公開し、改めて命について考える機会をもちます。その一環として、6月1日、校長として命について、次のような話をしました。

私の父は、30年以上前、私が25歳のときに他界した。その日、父の顔を見ずドア越しに「行ってきます」「行っておいで」と会話をした。それが父と交わした最後の言葉だった。できることならその日に戻って、もう一度元気な父の顔を見たい。顔を見てしっかりとあいさつをしたい。

25年間を振り返ってみると、小学生のときはともかく、中学・高校では、父と会話をしない日が多かった。他県の大学に進んだときは、年に数回しか帰宅していない。生前もっとももっとたくさん父と話をしておけばよかったと思っている。

私は、自分の子どもに「お母さんからもらった体を大事にしてください」とよく言う。親からもらった体を大事にしてほしいという気持ちから言っている。「自分を大事にする人は、他の人も大事にする」と考えている。自分を大事にするぐらい、他の人も大事にしてほしい。

皆さんの周りには、友達という「命」がたくさんある。その命に「おはよう」「さようなら」「ありがとう」といった声掛けをたくさんしてほしい。



私のつたない話が、どこまで子どもたちに伝わるかは、わかりません。しかし、父が亡くなったときに私が感じたことを素直に話しました。

ご家庭でもこの機会にお子様の「誕生したときの話」や「名前にどんな願い・想いがあるのか」など、話をされてはいかがでしょうか。お勧めします。

## 口皆さんも一緒に考えてください



上の写真は、溝の写真です。○は煙草です。下はその拡大写真。煙草の焦げた跡が分かります



拡大写真

私は朝、地域の方と一緒に校門であいさつ指導と安全指導を行っています。校門前の横断歩道で、子どもたちの横断のために、止まってくださった車には、「ありがとうございます」の気持ちを込め、頭を下げています。

そのとき、ふと校門近くの溝に目を向けると、なんとそこにはたばこの吸い殻が5つほどありました（写真参照）。よく見ると、しばらく火がついていた跡もあります。いわゆる「たばこのポイ捨て」です。この溝には、木の葉がたくさん集まっています。火事にでもなったら大変です。自分のたばこの後始末は、自分の責任で行うべきです。そもそも学校は、全域禁煙です。

他には、体育館のごみ箱に「赤ちゃんのオムツ」が捨ててあることがありました。やはりこれも持ち帰ってほしいですね。公共のマナーを守って、気持ちよく学校を利用してほしいと思います。

「子どもたちにお手本を見せること」が大人の役割です。是非、皆さんのご協力をお願いします。



<学校公開について> 学校公開（6/20～6/24）について、「難しい」と考えていましたが、規模を縮小して行います。新型コロナウイルス感染者が比較的落ち着いていることと、今の清水小学校の様子を地域の方々にも見ていただきたいと考えたからです。いろいろと制約を設けますが、ご理解とご協力をお願いいたします。 ※ただし、状況によっては、変更・延期もあります。ご了承ください。